



射水市立大門小学校 学校だより



三輪の結

大門っ子

第12号

令和6年9月17日

地震・津波に備えて！避難訓練

9月2日（月）午前9時40分、能登半島沖を震源とする地震とそれに伴う津波が発生したことを想定して避難訓練を行いました。当日は、台風の影響が懸念されましたが、無事に実施することができました。

大門小学校は、近くに庄川があり、地震が起きたら津波が川を逆流して、押し寄せる可能性もあると思われます。そこで、今回の訓練では、津波から身を守るため、3階へ避難しました。また、能登半島地震のときに多くの方が避難してきた経験を生かし、二口地区の住民の方々にも参加を呼びかけ、10人以上の方々が実際に避難されました。また、社会的に関心が高いこともあり、テレビ局や新聞社等の報道機関からの取材もありました。

「地震発生と同時に頭部を保護し、防御体勢を取ることができる」「緊急放送や教師の指示を静かに聞くことができる」「避難のきまりを守りながら、素早く安全に避難することができる」の3つの行動目標を確認しました。子供たちの避難の様子を見ていると、この3つのことをしっかり守ることができました。全員の避難が完了し、人数確認を行い報告までに要した時間が5分07秒でした。

訓練の最後に校内放送で子供たちに次のように話をしました。

能登半島地震では、富山県も被害を受けましたが、石川県では、もっと大きな被害があり、家やビルなどの建物が倒れました。輪島市では大きな火災があり、200以上の家が燃えてしまいました。今も避難している方がたくさんいます。悲しいことにこの地震で260人もの方が亡くなりました。

災害はいつ襲ってくるか分かりません。皆さん、こういうときこそ、自分の大切な命を守りましょう。そのためには、今日のような避難訓練をしっかりやらなければなりません。どうか命を守るために、今回のように真剣に取り組んでください。今日の避難訓練では、自分はどうだったかを胸に手を当てて考えてみてください。

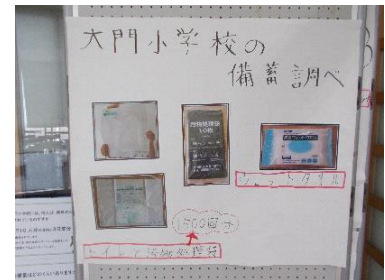


避難訓練の後、健康保健委員会の子供たちが、射水市役所に問い合わせたことについて、地域の方々に説明を行いました。収容できる人数は3,000人、710人分の食料が3日分、災害用毛布が430枚、厚手のマットが50枚あることなどを発表しました。

避難訓練に協力いただいた防災・資産管理課 大辻さんから、子供たちの発表に対する講評をしていただきました。そして、地域の方々からの質問にも答えていただき、説明会を終えました。訓練に参加していただいた地域の方々からのご意見です。

「地域住民も含めた避難訓練は、子供たちの様子を見る機会にもなり、よかった」
「3階への避難ということで、お年寄りの方のフォローが必要だと感じた」
「児童全員が静かに素早く避難して、先生の話もよく聞いていたので、日頃からしっかり訓練に取り組んでいるのだろうと思いました。ご指導ありがとうございます」
「地域と連携するとき、かなり大規模なものとなるが、果たして実践できるかどうか不安であり、実務的な訓練方法について是非有意義な方法を考えたいと思います」

様々なご意見を受け、今後参加していただける地区の拡充や規模に合わせた避難方法の検討、災害備蓄品の充実等を進めていき、万が一の時、子供たちや地域の方々の大切な命を救うことができるよう微力ではありますが、努めていきたいと思っております。



収穫の秋！5年生稲刈り体験活動！



黄金の稲穂が見事に実り、9月10日（火）、秋晴れの中、5年生は稲刈りを体験しました。まず、JAいみず野の職員の方から、稲を刈るときのポイントや注意すること、稲の持ち方等を教えていただき、さっそく自分の手で稲刈りに挑戦しました。サクッと鎌で株を切るときの音や一面に漂う稲わらの匂いなど、体験した者だけが味わえる心地よさを感じました。刈り取った稲は手で運び、コンバインで脱穀してもらいました。玄米は精米していただき、給食でいただいたり、家庭科で使ったりする予定です。



能登半島地震があった三学期の始業式の日。ある保護者の方が、「先生、実は地震のあった日に、輪島に帰省していました。大きく倒れたビルがニュースであったでしょう。その反対側にいたので助かったのです」と話してくださいました。「本当に無事でよかったですね」と心から安堵の言葉が出ました。

地震は、いつ、どこで、起こるか、正確に予測することはできません。大切な命を守るため、ご家庭でも、地震等の自然災害が起こったときの対応について話し合い、避難用具等の点検も行ってみてはいかがでしょうか。

(校長 阿尾昌樹)